信州大学附属図書館報

ISSN 1342－8322

花信

第2号 1997.8

Kashin : The Shinshu University Library Bulletin

目次

あきらめていませんか？ …… 1
信州大学附属図書館の現状と課題 …… 2
利用者の声 …… 5
新目録所在情報サービス説明会 …… 6
学術雑誌目次速報データベース …… 7
お知らせ …… 8
平成8年度図書館統計 …… 10
図書館間相互協力サービスの経年変化 …… 10
業務日誌 …… 11
運営委員会名簿 …… 12
人事異動 …… 12
編集後記 …… 12

「あきらめていませんか？」

中嶋聞多

「図書館は大学の心臓である。」1966年、米国教育協議会（American Council on Education）副会長Allan M. Cartterが述べた言葉である。さて、信州大学の図書館はどうであろうか。おそらく、このまま口に出すと笑われるのがおちだろう。充実した図書館と思索に適した散歩道。さしあたってこのふたつが今、私が信州大学にあって欲しいと思うものである。

いささか辛口の書き出しとなった。しかし今日、大学の図書館は以前にもまして重要な役割を担っていることを是非自覚してほしい。学術情報の増大とメディアの多様化とともに、必要とする情報がどこにあるのか、どのようにすれば入手できるのかがたいへんわかりにくくなっている。学術情報の流通システムを整備し、個人のさまざまな探索要求に対して、組織的なサポートをおこなう必要がある。当然、大学図書館はその中核的な役割を担わなければならない。

資料は使われてこそ価値がある。図書館は、大学において管理部門ではなくサービス部門なのである。この当たり前のことが、当たり前と考えられるようになるまで、まだまだ時を要するようだ。しかし資源重視から利用重視への転回は時代の流れである。その良い例が、コンピュータの世界にみられる。昔、ハードやソフトの資源がまだ貴重であった頃、コンピュータは「ホスト」（主人）と呼ばれていた。この時利用者は「端末」（よく末端と書き誤った）として認識されていたにすぎなかった。しかしネットワークの時代を迎えた今日、ホストは「サーバー」（奉仕者）となり、利用者は「クライアント」（顧客）となった。似たような変化は、図書館でも起こっている。一部の図書館では、サービス部門が前面に出て、受入・整理部門は「バックヤード」と呼ばれている。いずれの場合も変革の原動力は“利用”である。図書館も包丁も使い込んでこそ切れ味がよくなるのである。しかし現状は、本がないから、到着が遅いからといって、利用するのを諦めてはいないか。たしかに問題は数えきれないほどある。でも、まずは使ってみることからはじめて、その上でどしどし注文をつければよい。

変化のきざしはある。OPACも新しくなったし、館報も復刊された。しかしまずは身近な問題を、利用者とともに見直すことがなによりも大切であると思う。

（人文学部助教授　なかじま　もんた）

信州大学附属図書館の現状と課題

附属図書館事務部長　大　浪　由紀夫

1　信州大学附属図書館の概要

信州大学附属図書館は、中央館と5つの分館で構成され、5つの分館はそれぞれが1つの学部と対応している。蔵書面からは、範囲が広い中央館と教育学部分館を除き、主題専門図書館を形成していると考えられる。最も顕著な特徴は、6つの図書館が北信、東信、中信及び南信のそれぞれに立地している5つのキャンパスに分散配置されていることである。

また、それらの図書館は、おのおの、図書館資料の購入から利用者サービスまでのすべての図書館業務を行なっており、言うならば機能重複・分散型の図書館となっている。

2　信州大学附属図書館の現状

信州大学附属図書館の情報資料、職員、サービス及び予算の若干について、現状を明らかにするため、その実態に即し、他の図書館との比較において検討する。

検討事項　①　蔵書数（図書及び雑誌）
　　②　年間受入数（図書及び雑誌）
　　③　図書館職員数
　　④　学生に対する館外貸出冊数
　　⑤　図書館間相互協力・文献複写
　　⑥　予　算

データは、主として文部省「大学図書館実態調査」及び日本図書館協会「大学図書館調査」の平成8年度版を使用する。

信州大学附属図書館各館の名称は、以下のように略す。

中央館「中央」、教育学部分館「教育」、医学部分館「医学」、工学部分館「工学」、農学部分館「農学」、繊維学部分館「繊維」

(1)　蔵 書 数

ア　図　書

平成8年3月31日現在、信州大学の蔵書冊数は、1,012,640冊で、国立1大学平均の833,137冊より18万冊弱多く、国立Aクラス1大学平均（2,733,017冊）とBクラス1大学平均（979,623冊）の中間に位置している。（クラス分けは学部数による。Aクラス：8学部以上、Bクラス：5－7学部、Cクラス：2－4学部、Dクラス：単科大学）

信州大学全所蔵冊数に対する各館の割合は、中央37.1%、教育16.7%、医学14.7%、工学13.4%、繊維10.8%、農学7.2%の順になっている。

イ　雑　誌

信州大学の雑誌所蔵数は、14,366種で、国立1大学平均の12,817種よりは多く、Bクラス1大学平均14,420種より少ない。信州大学全所蔵数に対する各館の割合は、中央35.2%、医学17.6%、繊維13.4%、工学11.9%、教育11.5%、農学10.3%である。

(2)　年間受入数

ア　図　書

平成7年度における信州大学の図書受入数は、20,645冊で、国立1大学平均の受入数20,673冊とほぼ同数である。クラスごとの平均では、Bクラス（23,747冊）とCクラス（12,981冊）の中間に当たる。

信州大学各館の受入数は、中央の9,858冊（大学全体の48%）から農学の1,474冊（同7%）の範囲があり、受入数の多い順から並べると、中央の9千冊台、続いて2千冊台が4館（医学、教育、工学、繊維）、1千冊台が農学となる。

イ　雑　誌

平成7年度における信州大学の雑誌の継続受入数は8,325種である。国立1大学平均6,045種より多く、Aクラス（18,070種）とBクラス（7,563種）の中間に位置している。

信州大学内における雑誌受入数は、中央の3,086種、1千種台が4館（医学、教育、工学、農学）、繊維の535種と続く。

図書館統計に用いる雑誌を数える単位は、「冊」ではなく「種」である。「種」は厳密には重複を除いた純タイトル数を意味するが、その実態は延タイトル数と判断できる。多くの部局で構成されている大学ではそのおのおのから出てきた数値を

合計して大学の雑誌数としているのが実情である。なお、延タイトル数は図書館の作業量を計るには必要な数値である。

1997年現在、信州大学が継続購入している外国雑誌2,150点をサンプルとして、重複購入について検討する。2,150点は、延タイトル数に当たり純タイトル数ではない。

さて、2,150点の延タイトル数の中で、2部以上購入しているタイトルをa部数、b複数購入タイトル数、c重複タイトル延数により表したものが次表である。

重複購入数

a部数	b複数購入タイトル数	c重複タイトル延数
2　部	221	442
3　部	64	192
4　部	15	60
5　部	1	5
11　部	2	22
計	303	721

備考）c＝a×b

表の「b複数購入タイトル数」は、「a部数」購入しているタイトル数に当たる。

上の表からは、2部以上購入されているタイトルが303種あり、その延数が721点であることがわかる。おな、11部購入の2タイトルは、NatureとScienceである。

純タイトル数＝延購入数－（重複タイトル延数－複数購入タイトル数）の式を適用すると、信州大学が購入している外国雑誌の純タイトル数は、1,732となる。すなわち、信州大学の購入外国雑誌2,150点のうち1,732点が純タイトルで、418点（19%）が重複部分に当たる。

この値が他の大学図書館と比較して高いか低いかはデータがないので判断できないが、一般的に言えるのは、集中配置されていれば重複の度合いは低く、例えば研究室単位に配置されていれば度合いは高くなると考える。

重複にはやむを得ぬ重複と避けるべき重複があり、避けるべき重複をより小さくする努力が必要である。

(3)　図書館職員数

平成8年5月1日現在、図書館勤務の職員数は、国立Aクラス1大学平均が専任職員77人、臨時職員45人、計122人で、B、Cの順に少なくなり、Dクラスでは専任11人、臨時7人、計18人となっている。国立全平均では専任25人、臨時16人、計41人である。

信州大学では専任37人、臨時22人、計59人となっており、専任と臨時の割合は62.7%対37.3%で、国立1大学平均61.0%対39.0%に比して専任の割合は多少高い。

(4)　学生に対する館外貸出冊数

平成7年度、信州大学における学生に対する館外貸出冊数の合計は48,134冊、1館平均は8,022冊である。1館平均8,022を100とする指数で表すと、中央201、工学136、教育84、医学79、繊維55、農学44の順となる。

各館ごとの学生に対する貸出冊数を表にすると次のようになる。

学生に対する館外貸出数

区分	学生数	貸出冊数	学生1人平均
中　央	4,959	16,160	3.3
教　育	1,140	6,764	5.9
医　学	575	6,344	11.0
工　学	2,171	10,938	5.0
農　学	765	3,515	4.6
繊　維	1,260	4,413	3.5
計	10,870	48,134	4.4

注）学生数は、学部単位ではなくキャンパス単位の数値である。共通教育は中央館に含める。

国立全体の学生1人当たりの貸出冊数は9.3冊であるので、信州大学は全国平均の半分以下ということになる。

(5)　図書館間相互協力・文献複写

国立大学1館（1大学ではない）平均の文献複写件数は、受付2,804件、依頼2,019件で受付のほうが依頼よりも約1.4倍多い。

信州大学図書館間相互協力・文献複写件数（平成7年度）

区分	受　付	依　頼	計
中　央	1,542	1,821	3,363
教　育	437	1,081	1,518
医　学	1,767	3,698	5,465
工　学	1,147	1,259	2,406
農　学	694	1,244	1,938
繊　維	1,690	2,133	3,823
計	7,277	11,236	18,513
1館平均	1,213	1,873	3,086

信州大学の1館平均では、受付1,213件、依頼1,873件で、依頼が受付の1.5倍となっている。各館すべて依頼が多く、国立の平均と逆転している。

(6)　予　算

大学図書館実態調査（文部省）の中に、(1)図書館資料費の出所別・用途別内訳及び(2)図書館・室運営費の出所別内訳という項目がある。これらの項目からは図書館資料費及び職員の給与を除く図書

館運営費が把握できる。

平成7年度実績データに基づき、

① 図書館資料費においては、図書館備付図書館資料費に占める文部省からの配当額（当初から文部省により指定されて配当される予算額）と学内配分額（積算校費として大学に配当された予算額のうちから各大学において図書館に配分される金額）及び学内配分額の図書館備付と研究室等備付内訳について、

② 図書館・室運営費おいては、文部省からの配当額と学内配分額について、おのおの抽出して分析する。

図書館資料費における図書館備付という区分からは、図書館資料の配置の集中度を見ることができる。

ア　図書館備付図書館資料費

図書館備付図書館資料費における文部省からの配当額対学内配分額は、信州大学全体として見ると27.2%対72.8%で、学内配分額が文部省からの配当額の2.7倍となっている。学内配分額の割合は、国立大学の平均が78.5%であるので、信州大学は5.7ポイント低い。

個々を見ると、学内配分額の比が高いのは繊維の93.7%で、医学、農学、教育、工学が続き、いちばん低いのが中央の32.2%である。なお、平成7年度にあっては、中央館の文部省からの配当額には、特別図書購入費（7,325千円）が、学内配分額には、教育研究学内特別経費（5,000千円）が含まれており、これら臨時経費を差し引いた状態が中央館の常態である。中央館と他の分館との間には格差がある。

学内配分額の金額は、信州大学の合計が59,240千円であるので、国立1大学平均（86,823千円）にも、Bクラス（80,876千円）にも達せず、BクラスとCクラス（52,612千円）との中間に位置している。

イ　図書館資料費（学内配分額）の図書館備付、研究室等備付別内訳

平成7年度信州大学が学内配分額により購入した図書館資料の総額は、270,528千円である。国立大学のクラス別ではAクラス（617,228千円）とBクラス（226,650千円）との中間になる。なお、国立1大学平均は188,283千円である。

図書館備付と研究室等備付との比では、信州大学の図書館備付の平均が21.9%で、これは国立大学平均（46.1%）より24.2ポイントも低い。

各館の図書館備付の割合を見ると、中央館がわずか7%で、工学（10.6%）、教育（17.7%）、農学（20.7%）、医学（31.4%）と続き、いちばん高いのは、繊維の79.3%で資料集中化、共同利用の方針が予算面で支えられていることがわかる。

ウ　図書館運営費の出所別内訳

信州大学の図書館運営費における文部省からの配当額と学内配分額の割合は、14.3%対85.7%である。国立大学の平均と比較すると、信州大学の学内配分額の比率が13.9ポイント程高い。

金額的には、信州大学の学内配分額の合計は123,609千円であるので、国立1大学平均（64,954千円）よりは高く、Aクラス（236,537千円）とBクラス（68,496千円）の中間に位置している。

運営費については、図書館資料費に比べ、学内的措置がそれ相応に行なわれていると見ることもできるが、その実態は、複数の図書館を運営している当然の経費であると考えられる。

3　課題及び今後に向けて

1）信州大学は分散型大学の典型である。附属図書館が機能重複・分散型の図書館であることを含め、これまでは、分散が何かにつけ「免責」の理由づけになったふしがある。

今日、図書館業務のトータルシステムの運用、情報ネットワークと情報の電子化の時代にふさわしい図書館の管理、運営、サービスの形態が求められている。

2）信州大学の図書館資料の配置の状況は、図書館備付と研究室等備付の経費を通して見てきたとおりである。

キャンパスの分散に従い図書館が分散し、さらに資料室、図書室、研究室へと図書館資料は分散配置されている。分散配置は、空間的ばかりでなく、時間的、心理的に情報アクセスの機会を制限しており、利用の平等性からは遠い。

3）我が国の学術及び高等教育分野における情報の蓄積、流通を支える学術情報システムの理念は、資源共有、共同利用と表現されている。

研究は時間空間をこえとどまるところがないというのがその本質である。すべてを賄おうとしても不可能である。研究情報の収集、蓄積及び流通にかかわることは、資源共有、共同利用にふさわしい。

一方、学生の教育に係ることは、各大学のオートノミーのもとに遂行されるものであるから、それに係る基礎、基本の図書館資料は、利用の条件

を整え、自らの大学で不足なく整備すべきである。

大学全体に共通する図書館予算の原則を立て、実行することが、貧弱な蔵書構成を改めることになる。カリキュラム改革の視野に情報資料の充実が入れられていないと思われるのだが、教育と密着した蔵書構成は、学生の情報資料の利用を促し、ひとつの例として、最低の状況にある学生への貸出冊数を増加させることになると考える。

（おおなみ　ゆきお）

利用者の声

使える図書館に

人文学部3年　真田　孝子

学部二年生となり卒論作成に取り組むに当たって、まず最初に指導教官から教えていただいたのは、図書館の利用方法と文献検索の方法でした。それまではレポートを書く際に、必要な本を3、4冊OPACや開架図書からみつける程度にしか利用しておらず、学術情報の拠点としての図書館という認識はほとんどありませんでした。卒論準備を進めていくうちに、あらためて信大図書館の蔵書数の不十分さと、それ故に、ネットワークを利用した文献検索の重要性を実感しました。

OPACやCD-ROM データベースによる検索は、卒論やレポート作成時に必要な情報を素早く、効率よく手に入れることができるという点で大変有意義なものだと思います。また、まったく知識のない分野において、キーワードを使った文献検索は関連図書や参考文献、その分野の主流や現状がある程度把握でき、私自身とても助かっています。考えてみると、私は図書館の本を借りたりすることよりも文献を検索するために図書館を利用しているように思います。

多種多様な分野の本を多量に保持し、利用者がそれらをいつでも手に取ることができる図書館を実現することは非常に困難なことでしょう。しかしネットワーク等を使って図書館を図書情報の集積地とすることで、少なくとも、「信大の図書館には本がない、本が少ない」という半ば一般化している概念は無くなるのではないでしょうか。ネットワーク上で、文献複写や資料の閲覧、相互貸借等もできるようになれば、利用者にとって大変ありがたいことだと思います。また、できるなら休日開館や夜間開館時間をもう少し延長して欲しいと思います。

図書館は知的欲求を刺激し、知的活動を支える場であって欲しいと思います。これからも「使える図書館」として図書館を利用していけたらと思います。

図書館と私

人文学部3年　HII CHING PING（許　清萍）

信州大学に来て3年目、私は今までただレポートのために本を借りて返すという程度の利用で、ほとんど図書館を活かしていなかった。また、書架にずらりと並んでいる本から必要とするものを手に入れるのが本当に一苦労だった。毎回図書館から帰ってくると必ず頭痛と目まいなどの症状を引き起こしてしまう。おそらく自分は図書館を上手に使いこなす知識が乏しかったのだろう。幸い3年生になって、情報の収集・探索に関する授業を受けることができ、少しずつ図書館の使い方を覚え、そして信大の図書館によく顔を出すようになった。

使ってみれば信大の図書館は思ったより体系的で、コンパクトにまとまった図書館である。私は自分なりに利用の仕方も考えた。一番最初は館内のどこに、どんな参考図書があるのかを確かめること、それから必要な文献や論文をリストアップして、目録カードやオンライン検索によって資料がこの図書館にあるかどうかを確認する。もしある場合は借り出されていない限り、所定の書架を探せば、ほぼ間違いなく見つけることができる。また、所蔵件数がゼロの時、レファレンス担当者に頼んで他の図書館から取り寄せたり、場合によっては紹介状を書いてもらって他の図書館に行き、閲覧・複写することも可能である。とにかくあきらめず、積極的にいろんな方法を試すことである。

ところが、信大の図書館を利用すればするほど、いくつか改善すべき問題があることに気がついた。まず閉館時間がちょっと早すぎるのではないか、アメリカのほとんどの大学は夜遅くまで図書館が開館しているようである。そして夜間にもレファレンス担当者がいてほしい。また英語の文献や論文の数が少ないのも問題だ。

最期に、留学生の代表として図書館にお願いしたいことがある。信大の留学生の数は年々増加していて、図書館を上手に利用できない人は大勢いると思う。できれば、留学生を対象とした説明会を設けていただければ幸いである。

新目録所在情報サービス説明会（甲信越地区）が開催される

本年2月21日（金）、本学旭会館大会議室において、学術情報センター主催の甲信越地区新目録所在情報サービス説明会を開催しました。学術情報センター事業部目録情報課長笹川郁夫氏の講演と目録情報課雑誌目録情報係員上村順一氏によるデモが、午後1時から3時まで行われ、本学ならびに近隣の大学・高専の図書館から多数つめかけました。説明の概要を紹介します。

〈新しいCATの概要〉

1．クライアントサーバ型システムの採用

参加機関側をクライアント、センター側をサーバと位置付け、クライアントからの様々な要求に対して該当する情報を提供するという形態となる。目録やILLシステムはアプリケーションサーバ上で動くプログラム群として検索要求を受け取って検索結果を返したり、登録要求を受取りデータベースに書き込みしたりする。

2．APIライブラリの公開

クライアントがどのような要求の仕方をすればサーバがどのような処理をしてくれるのか。この約束事がAPI（アプリケーション・インターフェイス）と呼ばれるもので、新システムにおいてはセンターからライブラリの形で公開・提供される。

3．UIP作成のガイドライン提示

ユーザインターフェイスを提供するUIP（ユーザ・インターフェイス・プログラム）については、各システムベンダーが上記のAPIライブラリとクライアントの持つGUI環境とを利用して作成する。センターではUIP作成の際の注意事項をまとめたガイドラインを提示するので、この範囲内でどのようなUIPを作成するかについて、各ベンダーに自由度が与えられる。

なお、APIガイドラインの提示のみではシステムベンダーの作業が円滑に進まない場合を考慮し、現在センターでUIPのプロトタイプを最新話題のJavaを用いて作成している。要望があれば、このプロトタイプの提示も行う。

〈新システム機能〉

1．JIS X0221の採用

1993年（平成5年）にISO（国際標準化機構）において、中国語及び韓国・朝鮮語で使用される統合漢字を含む総数約3万4千字がUCS（国際符号化文字集合）として制定され、平成7年にはJISのX0221として国内規格化された。

JIS X0221には公用語の半数以上が含まれており、これを採用することによって現在総合目録データベース上で登録不可扱いになっている中国語及び韓国・朝鮮語等の資料を取り扱うことができるようになる。

ただし、現在はJIS X0221に対応する環境が非常に限られているため、当面データベースだけを対応させ、平成9年度運用開始の際にはクライアント側は現状どおりの運用となる。

2．自動登録インターフェイス

従来のオンライン形式による自動登録ではなく、データの転送とバッチ的な処理を可能にする専用のインターフェイスを用意する。

3．作業対象ファイルの設定機能

検索及び登録において、対象とするファイルの組み合わせをクライアント側で指定することができるようにする。

4．フルタイトルキーの作成

NatureやScience等の単語1語のタイトルや一般的な単語のタイトルは、容易に検索できるようにするため、本タイトルの先頭から終わりまでを一つの検索キー、すなわちフルタイトルキーとして作成する。このキーは自動登録ソフトウエアにおける検索キーとしてもかなり効果を発揮することになると予想される。

5．重複書誌作成抑止機能

重複書誌レコードのうち単純な操作ミスが原因と想定されるものについては、重複チェックを行う機能を、UIP側に付加することを必須とするようなガイドラインを作成することにする。

6．データの二重保持の解消

PTBLと親書誌タイトル、所蔵レコードの参加組織略称等、現行のシステムでデータを二重に記録している部分について、データの持ち方を整理し、リンク関係に齟齬を来さないようにする。

新システムは平成9年4月から運用を開始する

予定で、現在詳細仕様の確定を急いでいる。これらの内容及びスケジュールについて詳細がまとまり次第改めて広報するとともに、参加機関、システムベンダーに対する説明会等も実施予定である。

（図書情報係　石坂　憲司）

学術雑誌目次速報データベースへ登録されている信州大学の出版物

学術雑誌目次速報データベース（SOKUHO : Current contents of academic serials in Japan）は、我が国の学術雑誌に掲載された記事の標題、著者名、掲載雑誌名、巻号、ページ等を収録した索引データベースで、学術情報センターのオンライン情報検索サービスNACSIS-IRによって公開されています。

このデータベースは、全国の大学図書館等の分担入力方式で作成されており、本学からも以下の14タイトルの目次情報を入力しています。

（関連ホームページ：http://www.sokuho.op.nacsis.ac.jp/）

《中 央 館》

1．信州大学教育システム研究開発センター紀要／信州大学教育システム研究開発センター［編集］（AN10534960）
2．信州大学教養部紀要＝Journal of the Faculty of Liberal Arts, Shinshu University ／ 信州大学教養部（AN10176022）
3．信州大学経済学論集／信州大学経済学部（AN00121181）
4．信州大学理学部付属諏訪臨湖実験所報告＝Report of the Suwa Hydrobiological Station, Shinshu University ／信州大学理学部付属諏訪臨湖実験所＝Suwa Hydrobiological Station, Shinshu University（AN00089817）
5．人文科学論集／信州大学人文学部（AN0012272X）
6．人文科学論集．人間情報学科編／信州大学人文学部［編集］（AN10523716）
7．人文科学論集．文化コミュニケーション学科編／信州大学人文学部［編集］（AN10523705）
8．Journal of the Faculty of Science, Shinshu University（AA00697923）

《教育学部分館》

1．志賀自然教育研究施設研究業績／信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設（AN00100873）
2．信州大学教育学部紀要／信州大学教育学部（AN0012108X）
3．信州大学教育学部教育実践研究指導センター紀要／信州大学教育学部附属教育実践研究指導センター（AN10428577）

《工学部分館》

・信州大学工学部紀要／信州大学工学部（AN00121228）

《農学部分館》

・信州大学農学部紀要／信州大学農学部（AN00121352）

《繊維学部分館》

・信州大学繊維学部紀要・研究目録／信州大学繊維学部（AN10429718）

お知らせ

平成8年度遡及入力結果報告

前号で紹介したとおり、図書館では目録データベース（OPAC）への遡及入力計画を進めておりますが、平成8年度は下記のとおり、実施いたしました。入力対象は、利用頻度の高い開架図書を中心に行いました。併せて、特殊文庫である繊維学部所蔵の旧上田蚕糸専門学校蔵書の目録入力も行いました。

本学図書館の遡及入力済図書冊数は、全蔵書106万冊中のまだまだごく一部です。平成9年度も引き続き、遡及入力計画を継続の予定ですので、関係各位のご協力を切に願う次第です。

	冊　数	対　象　分　野
中　央　館	13,614冊	社会科学：12,029冊、文学：1,585冊
教育学部分館	1,452冊	主に郷土（長野県関係）資料
医学部分館	2,376冊	すべて医学
工学部分館	1,546冊	すべて工学
農学部分館	1,324冊	自然科学：124冊、産業：1,200冊
繊維学部分館	2,825冊	社会科学：523冊、自然科学：1,431冊 旧上田蚕糸学校蔵書：871冊
合　計	23,137冊	

全図書館で閲覧システム稼動

今年度から医学部分館（4／14～）、農学部分館（5／1～）において閲覧システムが稼動しました。このことにより、医療短大図書室を含む全学の図書館において、閲覧システムが稼動されたことになります。以下に、はじめて閲覧システムを稼動させた医学部分館と農学部分館の担当者の準備の様子や感想などを紹介します。

● 医学部分館

4月14日より閲覧管理システムが稼動しました。その下準備に遡及入力を学生アルバイトにより約2,000冊行いました。それと並行して、中央館で端末操作の指導を受けました。利用者からは、本の貸出し、返却が以前より楽になったと喜ばれております。返却の遅れも、画面を通してみればすぐわかるので便利になりました。これからは、未入力の本も少しずつ入力していきたいと考えております。大変な作業ですが、皆の力でやりたいと思います。医学部閲覧管理システム稼動に際して、御支援頂いた方々にお礼の言葉を申し上げたいと思います。　　（医学情報係　小林　雅範）

● 農学部分館

本年3月18日に立ち上げた農学部図書館ホームページには「4月からの稼動に向けて準備中」と書きましたが、このホームページのHTMLの修正、年度末の支払業務、急に担当することになったILLの依頼業務等で遅れ、閲覧システム稼動の実際の準備は4月中旬から始めました。そこで効率良く稼動開始できるように、次の2点については、前もって計画を立て、システムの状況によって柔軟に対処できるようにしておきました。

①図書館利用証（旧システム稼動後に農学部在籍となった教官、連合大学院学生）の作成

②利用者データの入力及び旧システムにはいっている農学部学生のデータ修正

①については利用者が少ないので、稼動後早い時期に発行することとして、②の利用者データだけ入力しました。旧システムからの移行データがかなり利用できたこと、学籍番号がキーとなったことで、データファイル修正作業は係員で分担して数日で完了しました。

OCRが使用できなかったので、利用者番号は学籍番号等の一覧表を用い手入力することとして、5月1日には閲覧システムを稼動することができました。遅れていた図書館利用証も係員全体の協力で発行することができました。

貸出冊数・期間が増え、カウンターでの手書から解放されたことで、利用者にも好評です。係員のカウンター業務も軽減されました。

閲覧システムを稼動してみて、改めて遡及入力の重要性を、また、図書館システムは係員皆が使うという共通した認識を、図書館係員全体が持つことが大切だと思いました。

（農学情報係　野口　眞澄）

本学関係（者）著作寄贈図書一覧
（平成8年4月～9年6月）

ここには本学関係者が著作・編集・刊行等に関係した図書で、図書館に寄贈された分を掲載しています。御寄贈ありがとうございます。引き続き御寄贈をお願いいたします。

書　名	発　行　者	出版年	寄贈者名	所　属
＊中央館				
星の時間	電算出版企画	1996	宮地良彦	前学長
障害児の病理	日本文化科学社	1994	田巻義孝	教育学部
歌集　系統樹	短歌新聞社	1997	小林　勝	繊維学部
歌集　漿果の雫	みぎわ短歌会	1996	手嶋竹司	名誉教授
わが人生論：青少年へ贈る言葉　長野編（総集版）	文教図書出版	1996	中川大倫	名誉教授
人間この信じやすきもの（T.ギロビッチ著、守一雄、守秀子訳）	新曜社	1994	守　一雄	教育学部
子規秀句考	明治書院	1996	宮坂静生	医療短大
性への自由／性からの自由	青弓社	1996	赤川　学	人文学部
ドイツ・ハイク小史	永田書房	1996	加藤慶二	元人文学部
近世村落の動向と山中騒動の研究	信毎書籍出版センター	1996	田中　薫	教育学部卒
1994年信州大学・ネパール警察合同ヒマラヤ遠征隊登山報告書	信州大学山岳会	1996	山田哲雄	名誉教授
信州大学教育学部附属長野中学校50年史	同中学校創立50周年記念事業委員会	1996	発行者	
長野県の郷土と文化	八十二文化財団	1997	阿久津昌三	教育学部
子供たちと学ぶ妻籠城	南木曽町博物館	1997	笹本正治	人文学部
武田氏と御岳の鐘	山梨日日新聞社	1996	笹本正治	人文学部
中世の災害予兆	吉川弘文館	1996	笹本正治	人文学部
葛尾城を歩く	坂城町教育委員会	1993	笹本正治	人文学部
堀の内中世居館跡をめぐって	辰野町教育委員会	1995	笹本正治	人文学部
＊教育学部分館				
新しい読みの指導	三省堂	1996	渡辺時夫	教育学部
小学校家庭科授業研究	教員養成基礎教養研究会	1994	林　隆子	教育学部
日本語教育論集	吉田弥寿夫先生還暦記念論集編集委員会	1991	徳井厚子	教育学部
＊医学部分館				
膀胱全摘除と尿路変向・再建のテクニック	医学書院	1995	小川秋實	学　長
戸塚忠政先生追悼誌	第一内科同窓会	1996	発行者	
看護部のあゆみ	附属病院看護部	1996	発行者	
C型肝炎	医学書院	1996	清澤研道	医学部
神経の再生と機能再建（志水義房ほか編）	西村書店	1997	志水美恵子	
＊農学部分館				
信州実験動物研究会創立20周年記念誌	農学部生物資源開発学研究室	1997	辻井弘忠	農学部
＊繊維学部分館				
制御工学演習	森北出版	1996	鳥羽栄治	繊維学部
制御工学演習	森北出版	1996	山浦逸雄	繊維学部
歌集　系統樹	短歌新聞社	1997	小林　勝	繊維学部
衣服の幾何学	光生館	1997	篠原　昭	名誉教授

平成8年度図書館統計

1）蔵書冊数　（単位：冊）

館　名	平成7年度末	8年度受入数	平成8年度末
中央館	375,454	8,449	383,903
教育学部分館	169,060	1,993	171,053
医学部分館	149,173	2,574	151,747
工学部分館	135,960	2,650	138,610
農学部分館	73,129	1,474	74,603
繊維学部分館	109,864	1,877	111,741
医短図書室	29,983	1,200	31,183
計	1,042,623	20,217	1,062,840

2）受入雑誌種類数　（単位：種）

館　名	日本語	外国語	計
中央館	2,422	985	3,407
教育学部分館	935	249	1,184
医学部分館	731	568	1,299
工学部分館	751	342	1,093
農学部分館	824	249	1,073
繊維学部分館	285	235	520
医短図書室	330	91	421
計	6,278	2,719	8,997

3）年間利用者数及び学生に対する館外貸出数

館　名	利用者数（人）	1日当り（人）	学生に対する館外貸出数（冊）
中央館	199,012	843	16,549
教育学部分館	54,646	230	6,312
医学部分館	20,599	72	6,397
工学部分館	52,255	187	10,383
農学部分館	26,435	107	3,939
繊維学部分館	61,179	250	3,926
医短図書室	25,482	107	857
計	439,608	1,796	48,363

4）図書館間相互協力

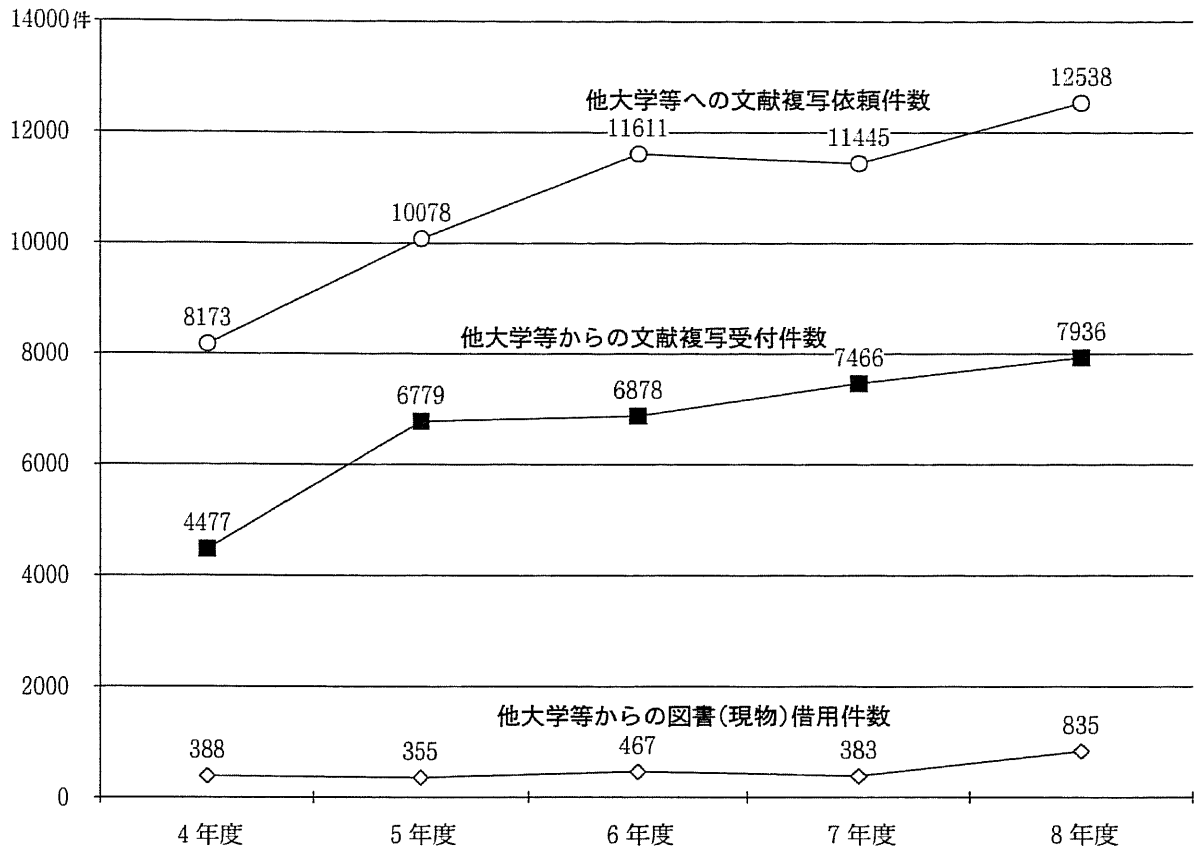
区　分	相互貸借		文献複写			
			学内		学外	
	貸	借	受付	依頼	受付	依頼
中央館	177	528	456	339	1,914	2,042
教育学部分館	40	135	124	293	278	951
医学部分館	0	5	334	46	2,975	3,646
工学部分館	32	65	353	205	917	1,534
農学部分館	18	24	183	339	607	1,435
繊維学部分館	8	61	228	441	1,052	2,575
医短図書室	0	17	47	62	193	355
計	275	835	1,725	1,725	7,936	12,538

（注）文献複写の学内とは学内図書館間のこと。
また、学外とは学外の大学図書館、その他である。

図書館間相互協力サービスの経年変化（全学）

ここ数年、大学間における相互協力サービス（図書の貸借、文献複写）の件数の増加が顕著になっています。これは、学術情報の量的増加と質的変化や最近の外国雑誌の高騰等がその背景にあるものと考えられますが、併せて学術情報センターによる総合目録データベースの整備及びそのシステムをベースとしたＩＬＬ（Inter Library Loan）システムの普及による業務の効率化と迅速化によるところが大きいと思われます。

最近5年間の信州大学（全学）における他大学との相互協力関連業務を以下に紹介します。各分館の件数等については、花信速報版で詳しく紹介する予定です。



業務日誌

平成9年

2月17日	全学図書関係係長会議
3月5-6日	平成8年度電算システムに関する情報交換会（国立婦人教育会館／ｻｰﾋﾞｽ課長、雑誌情報係：手塚）
3月10日	附属図書館運営委員会（平成8年度第6回）
3月10日	学術情報センター電子図書館サービス説明会（東京医歯大／資料ｻｰﾋﾞｽ係：田村）
4月9-10日	新入生に対する図書館ガイダンス（中央館）
4月24-25日	第48回北信越地区国立大学図書館協議会（富山市／館長、部長、ｻｰﾋﾞｽ課長）
5月22-23日	第68回日本医学図書館協会総会（旭川市／医学情報係長：淵井）
5月27日	平成9年度国立大学附属図書館事務部課長会議（東京医歯大／部長、管理課長、ｻｰﾋﾞｽ課長）
5月27日	学科図書室等の事務系職員に対する新システム導入に伴うOPAC等の説明会（中央館／経済学部2名、理学部5名、企画室2名出席）
5月28日	国立附属図書館に関するヒアリング（文部省／部長、ｻｰﾋﾞｽ課長）
6月4日	附属図書館運営委員会（平成9年度第1回）
6月4日	全学図書関係係長会議
6月4-5日	第1回NACSIS-ILLシステム講習会（学術情報ｾﾝﾀｰ／工学情報係：牧野）
6月12-13日	平成9年度附属図書館初任者研修（中央館）
6月17日	BLDSC文献複写サービス説明会（東京／資料ｻｰﾋﾞｽ係：田村）
6月25-26日	第44回国立大学図書館協議会総会（京都／館長、部長、ｻｰﾋﾞｽ課長）
7月17-18日	第3回NACSIS-ILLシステム講習会（学術情報ｾﾝﾀｰ／医短図書室：上原）

附属図書館運営委員会名簿

（平成9年6月1日現在）

附属図書館	館長	○田巻義孝	工学部	分館長	○小沼義治
人文学部	教授	水野知昭		教授	酒井雄二
	助教授	○數土直紀	農学部	分館長	○太田克明
教育学部	分館長	○横田通		教授	柴田久夫
	教授	山下宏	繊維学部	分館長	中沢賢
経済学部	教授	青才高志		助教授	○成田進
	助教授	○都築勉	事務局	事務局長	渡部蓊
理学部	教授	○井上和行			
	助教授	竹下徹			
医学部	分館長	○福島弘文	オブサーバー		
	教授	松尾清	医療短大	助教授	川上由行

○印は収書委員

人事異動　平成9年4月1日～

転入			
9．4．1	総務係長	原茂	（医療短大会計係長）
	図書情報係	藤田秀子	（理学部化学科）
	雑誌情報係	塚田理絵	（採用）
	教育学情報係	瀬尾明範	（人・経学部学務第2係）
	教育学情報係	達家明子	（長野附属学校第3係）
	医学情報係	大内佳子	（医学部用度第1係）
	農学情報係主任	網野政子	（農学部管理係主任）

転出			
9．4．1	施設部工事司計係長	大月馨	（総務係長）
	理学部化学科	小出志津子	（雑誌情報係）
	教育学部会計係	犬浦寛明	（教育学情報係）
	医学部用度第1係	倉田真紀	（教育学情報係）

（　）内は旧職名等

編集後記

大学図書館は、大学の目的である教育研究を遂行するために設置されていることは言うまでもありません。大学自体のあり方が問われている今、図書館のありようも見直す必要があります。御寄稿いただいた人文学部の中嶋先生は、図書館の改善は、まずは利用者サイドから注文をつけることだと述べられています。当たり前のことのようですが、あえてそのことに触れられた真意を、図書館員として心して受け止めなければならないと思います。

花信では、我が信大図書館の現状をできるだけ具体的に紹介していくつもりです。本号では手始めに、平成7年度の統計データを基に、全国立大学の中での位置づけを紹介しました。率直な御意見、御質問を編集子あてお寄せくだされば幸いです。

花信はwwwでも御覧いただけます。

http://shinlis2.shinshu-u.ac.jp/kashin.html

花信　第2号　1997年8月29日

編集・発行　信州大学附属図書館

〒390 松本市旭3－1－1

TEL 0263（37）2174・FAX 0263（33）5833

E-mail:jjl3000@gipac.shinshu-u.ac.jp